

地震に強い!! 砕石パイル工法脚光

— 桃生の企業が導入 —

液状化防止、軟弱地盤に有効

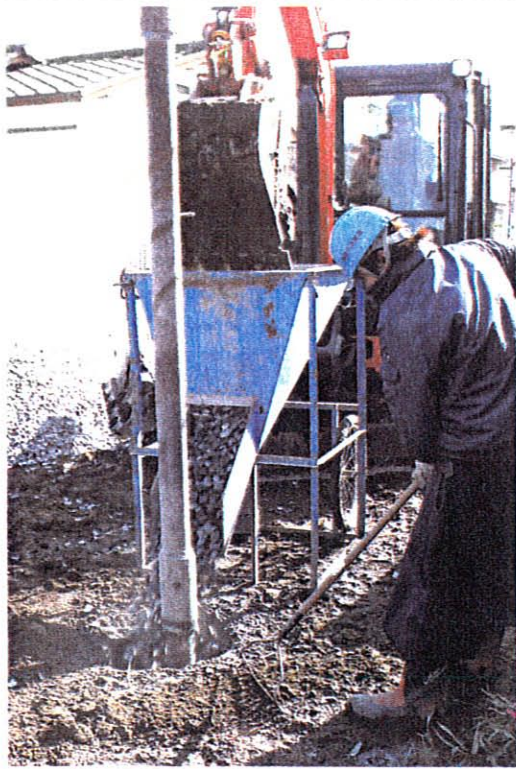
地震による液状化の防止対策や軟弱地盤の改良に有効とされる先端技術「天然砕石パイル（ハイスピード）工法」が注目を集めている。松山市の環境ビジネス企業が4年ほど前に開発し、全国の建設、土木会社など162社が導入している。県内では仙台市のハウスメーカーと、石巻市桃生町檜崎の佐々木興業（佐々木和夫社長）の2社のみ。東日本大震災の復興需要とともに、石巻地方でも同工法を採用した住宅が次々に登場している。

石巻地方採用住宅が次々

佐々木興業は、同工法の施工で使用する建柱車を数千万円で購入し、従業員を研修会に派遣した。2010年8月に環境ビジネス企業から導入許可を取得。技術性能を第三者の立場から評価する日本建築総合試験所の性能証明書の発行も受けている。

今年1月には同工法を開発した環境ビジネス企業が、国交省の震災復旧・復興支援サイトに登録され、佐々木興業にも県内の工務店などから問い合わせが相次いでいる。

2月中旬には、東松山市小野地区で、新築住宅の地盤改良工事を行った。建柱車で深さ約4.3mの穴を掘った後、天然の砕石を入れ杭（くい）を造った。現場に掘った穴の底は



天然砕石パイル工法 天然の砕石で地盤に砕石杭を造ることで、軟弱な地盤を強い地盤に改良。建物の土台をしっかりと支え、地震時の液状化から地盤を守る。天然の砕石しか使わないため、セメントや鉄パイプのように劣化したり、さびたりしない。土壌汚染や環境破壊による周辺への悪影響もなく、二酸化炭素の排出もない。

水でぬかるんだ状態。軟かせていた。佐々木社長は「敷地面積1000平方メートル以内で、3階建てまでなら、工法の導入は可能」と説

砕石パイル工法の工事に取り組む作業員 東松山市小野

明。今後、アパートやマンション、幼稚園、保育所などの建設で導入を働きかけていく考えだ。工法があらためて注目されたのは、東日本大震災による地盤の液状化。千葉県浦安市や茨城県神栖市などで被害があったが、同工法を導入した住宅は液状化の低減効果があつた。テレビや業界誌がさらに高まったという。